



平成 25 年12月20日 第 3 卷(第14号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

\*\*\*\*\* TOPICS \*\*\*\*\*

1. 災害支援研修アンケート集計結果を掲載いたしました。

2. 「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I」

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン II」

好評発行中です。活動継続の為の寄付になっています。皆さま、ぜひご購入のうえご覧ください！！

※詳細は、“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。



\*\*\* 目次 \*\*\*

1. 協力員として参加して
2. 石巻での活動の様子（概要から抜粋）
3. 石巻での活動の様子（FaceBook から引用）
4. 災害支援チーム全体会議の様子
5. 災害支援研修アンケート集計結果のお知らせ
6. 災害支援チームからのお知らせ
7. 事務所より

\*\*\* 1. 協力員として参加して \*\*\*

活動期間:2013年10月23日～10月26日

小西 晶也(大阪府 済生会 新泉南病院)

**感想:**

私は10月23日～10月26日の期間、宮城県石巻市において災害支援活動協力員として参加させていただきました。私自身は東日本大震災以降、宮城県に行くのは初めてであったため今現在、石巻市がどのような状態でどのような復興支援がなされているかは想像ができませんでした。しかし、実際に現地に行き仮設住宅にお住まいの方々や被災された方のお話を直接伺うことで今どのような支援が必要で今後何をしていくべきなのかをすごく考えさせられました。社会人1年目でSWとしての経験もほとんどない私に何ができるのかということに初めは考えていましたが今回の活動で被災地の現状を知り、今後を一緒になって考えていくことが今の私にできることなのではないかと考えました。現地では社会福祉協議会や地域の方々の活動も知る事ができ、本当に社会的な支援が必要である高齢者世帯等の方々が復興の中に取り残されてきている現状を学びました。様々な職種の方々が協力し合い、継続的なアプローチで支援を行う必要があるのだと実感しました。

**活動を検討している皆さんへ一言:**

私は被災地の今を知る事も復興支援の1つになるのではないかと今回の活動を通して感じました。まずは参加してみて、復興支援の今を肌で感じる事ができてよかったと思います。

活動期間：2013年11月5日～11月7日

反田 愛子(千葉県 亀田総合病院)

### 感想：

1日目は午前中にささえあい拠点センターにて、復興公営住宅事前登録の対応に同席させて頂き、午後からは雄勝～女川、大川小学校近辺の町の様子を車で回らせて頂いた。2日目～3日目にかけては開成地区を、NTT ソルコの方とペアで公営住宅未申請の世帯を回り、申請への意向確認と合わせて、申請が困難と予想される方、またサポートが必要と思われる方をピックアップしてつなげられるような体制をとった。

久保木さんのご配慮で、復興の手が届き切っていない地域を回って、訪問に入ったことで、よりイメージしながら話を伺うことができた。

お話の中から、住む場所を始め、家族・近所との関係、通学先、遊び場や学習の場の確保、介護、被災のストレスによる無力感や抑うつ等の精神症状等、多くの問題を抱えていること、またその問題が変化しつつあることを知った。

今までは復興に向けて一丸となっていたが、公営住宅に入れる世帯、外れた世帯等、家を購入される世帯等、被災された方々の中で、生活・環境の差がさらに明らかにされることによる心情や人間関係等の変化も懸念されると感じた。

また、現地スタッフの方々も、未だストレスが多い状況下で、被災地支援に向ける真摯な姿勢や、多くのお話を伺ったことで、初めて被災地入りする私に、多くの刺激と考える材料を与えて頂いた。

### 活動を検討している皆さんへ一言：

被災地の方や、支えるスタッフの方との話を聴ける本当に良い機会です。

訪問作業は冷えますので、暖かい恰好で来てください。

活動期間：2013年11月5日～11月7日

有原正悟(千葉県 安房地域医療センター)

### 感想：

仮設入居者を対象とした、復興公営住宅の手続きに関わる支援をさせていただきました。1日目は、支え合い拠点センターでの相談会に同席しました。その中で、「危険区域外」とされた住所の方であっても、そこで見た光景の悲惨さから元の居住先には戻れないと仰っていたのが印象に残りました。一方、2日～3日目の仮設訪問の際には、先祖から受け継いだ土地を守りたいので、復興公営住宅の申し込みはせず、現地での住宅再建を目指すと仰っていた方もいました。住宅の申請手続きというと淡泊に聞こえそうですが、その選択には、震災で受けた心の傷や土地に対する思いが影響を及ぼしているのだということが伝わってきました。今回、私自身が面接する機会はありませんでしたが、復興公営住宅の申請システムの難しさと、仮設入居者の背景の複雑さを思うと、ここにソーシャルワーカーに関わる潜在的ニーズは確かにあると感じています。ただ、そのニーズをキャッチしても、無気力で相談をする気持ちにならない方にも出会いました。短期間のボランティアの限界を感じながらも、今後いかにバトンを渡すかという点についても改めて考えてみたいと思います。この度は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

活動を検討している皆さんへ一言:

2年半経って初めてのボランティアで不安もありましたが、現地スタッフの方がとても温かく迎えてくださり、安心して3日間を過ごすことができました。構えすぎず、石巻まで来てしまえば大丈夫だと思います。ぜひ、参加することをお勧めしたいですし、私自身もまた機会を見つけて戻ってきたいと思います。

活動期間:2013年11月6日~11月8日

大野 美智子(千葉県 我孫子ロイヤルケアセンター)

感想:

今回、災害対策本部からの協力要請メールを受け、11月6日~3日間の予定で現地入りした。東日本大震災から2年8ヶ月。初めての現地活動である。活動目的は、本年9月から始まった、復興公団住宅への入居の意思確認と申請手続きの促進、支援等。具体的には未申請の世帯を石巻市が業務委託している民間の調査会社と協力して訪問することである。訪問件数は7、8日の2日間、のべ138件であった。

活動を終え、大学時代の恩師に会う機会があった。「復興はすすんでいるか」との問いに、新しい街づくりが進んでいる一方、日々の暮らしが精いっぱい、病気や障がいによりご自分の置かれている状況がわからないまま一人仮設住宅で暮らす住民がいる現実が混在しており、何とも答えることができなかったが、この現実もまた新たな課題であり、私たちが「役に立てること」のようにも感じている。

活動中に現地スタッフから、「本当は海岸周辺やお土産など見て回ればいいんですけど、時間がなくてすみません」と言葉をかけられ、2年余前の1本の電話を思い出した。実は震災直後にボランティア登録したことがある。出発前日に知人から、(石巻には)来ないでほしい、という主旨の電話を受けた。「新たな人がボランティアに来るたびに石巻の現状を知らせたり見せて回ったりまるでガイドのよう。本当は来てほしいけど、余裕がない。」と説明してくれた。私はその電話から今は行く時ではないように思い、事務ボランティアなどを経て何か自分にできることはないか、と考えていた。あの電話がなかったら、職能団体が派遣するボランティアとして意識して機能できただろうか・・・お互い専門家として意識を高めあえる仲間とともに在ることを、活動を終えた今とても感謝している。

活動期間:2013年11月18日~11月20日

佐藤 朝美(千葉県 亀田総合病院)

感想:

私は、今回初めて現地協力員として災害復興支援携わらせて頂きました。

仮設住宅にて、復興公営住宅の登録支援では登録をスムーズに行うお手伝いだけでなく、生活の中で困っていること、3年が経とうとする今も消えない苦しみや時間が経つにつれ必要となる環境調整など、個人宅を訪問したり、説明会に来て下さる住人の話に耳を傾けたりする中で、知ることが出来ました。

震災当初はSW1年目であり、何か支援を行いたいとは思いつつもSWとして役に立つことが出来るのか、現地へ赴くことで足手まといになってしまわないか等、現場でソーシャルワークが行えるのか自信がなく、現在に至るまで積極的に携われていませんでした。しかし、今回機会を与えて頂き、実際に行ってみると、もっと早くから現地へ赴き、感じ、SWとして出来ることを模索しながら活動していくべきであったと後悔を感じました。

今回の活動は3日間という短い期間であり、お役に立てたのか、自信は無いのですが、活動を通し私自身の「災害支援」の意識が大きく変化しました。日頃の業務に戻ってからもこれらの感じてきたことを職場の同僚や関係機関の仲間に伝え、バトンを繋げることが役割と感じました。そして、今回の経験から今後必要となる支援を考え、また、現地協力員として参加させて頂きたいと思いました。

#### 活動を検討している皆さんへ一言：

震災から月日が経過しても、その時々で様々な課題に直面されていると感じました。SWの力が必要な状況であると思います。震災当初(SW1 年目)の私のように「まだ経験年数が浅いから、役に立てないかも」と考え、現地に赴くことに戸惑われている方も、必ずできることはあると思います。まずは活動に参加してみたいと思います。

活動期間：2013年11月25日～11月27日

藤川 唯香(石川県 介護老人保健施設 みらいのさと太陽)

#### 感想：

何ができるだろう、何か1つでもできたらな…と思って参加した災害支援活動。実際は、私自身が多くのことを学ばせてもらった。地域のことを始め、震災当時の様子や今をどう感じているのか等、住民たちが語ることで私は彼らの生活はもちろん、その一部である石巻について知ることができたと思う。「支援する」なんておこがましいことで、住民たちが語ることを受け止めることが精一杯だった。震災で私が想像しえない思いをしてきたにも関わらず、県外から来た私たちのことを優しく、そして温かく迎えてくれた皆様。「石巻に足を運んでくれるだけで、本当に有難い」と明るく語ってくれた言葉は、忘れることができない。

今回の活動では、普段の実践で私が忘れがちなことを指摘されたように思う。私が石巻の皆様、明日への活力をもらって帰ってきた。1日でも早い復興のために、今私ができることをやりたいと思う。

#### 活動を検討している皆さんへ一言：

まずは石巻に足を運んでみて下さい。ソーシャルワーカーである私たちだからこそ、住民たちの皆さんが生き生きとした姿を見せてくれると思います。それだけで、きっと石巻の皆さんが明日への一歩を踏み出せるのではないかと感じました。

## \*\*\* 2. 石巻での活動の様子（概要から抜粋） \*\*\*

\*\*\* 11/18 久保木 美由紀（現地担当）

事前登録支援：事前登録件数(17) SW 介入(0) 訪問(40)：市職員と4件の来客対応をした。3件はオリエンテーションを兼ねて見学。申し込み方法や留意点など口頭説明するポイントを学ぶ。4件目の方は、身の回りの漢字以外の書字が困難な方であったが、代筆し対応。職員と30件ほど戸別訪問(第3仮設)した。その1/3は不在で、家の様子から就労していることが推測され、日中の勤務時間帯での訪問面接は困難な印象を持つ。在宅していた方も大半は事前登録について理解していて、決めかねているか、もしくは、締切までよく

吟味したいという意向であった。70代の独居男性を訪れた際、「市役所には期待していないから、協力しない」と声を荒げられる場面があった。傾聴しつつ、彼の主訴が「大森仮設に入る前に入院していたが仮設に入れるかどうか1ヶ月も待たされたため、もう期待したくない」ということが判った。彼は、大腸がんを4年前に患い、現在、仮設にて在宅療養中とのことで、復興住宅の申し込みをするべきでないか?と問いかけてみたものの、「住宅が完成するころには、もう死んでいるからいい。」と冗談まじりに答えてくれた。もう少し深く伺ってみると、市内に弟がいて今も通院などの面倒を看てくれており、弟を頼るような発言もあったことから積極的な介入を行わないことにした。初日で分からないことも多かったが、仲間のアドバイス、行動力に助けられ、また、市職員も親切にレクチャーしていただいた。この活動での私の役割は、事前登録という行為を側面的に支援することと、本来の目的ではないが福祉的ニーズをキャッチすることにあると認識した。

\*\*\* 11/20 久保木 美由紀 (現地担当)

事前登録支援:事前登録件数(-) SW 介入(2) 訪問(7):南境第7仮設の70代女性、独居宅を市職員と訪問。震災後地元から長女宅で生活していたが、諸事情により仮設に先週から入居したとのこと。

復興住宅については、社協の訪問員からの紹介で本人が市役所に電話で問い合わせたとのことであった。本人は「地元に戻りたいが、娘を頼らなくてはならないので、娘に一番近い住宅にしてほしい」とのことで、娘の来石や利便性を考慮してH地区へ申し込むことになった。私は、住宅申し込みのニーズ把握といくつかの案を提示し、ほんの少し後押しするだけであったが、彼女は自身で決断できたことに満足している様子であった。訪問対応が必要な方は、自己決定力に乏しい方も多く、客観的にみてどの仮設に申し込むべきか?を提示してあげることも重要かと思われた。同行する市職員は地元の状況のある程度把握しているようなので、当事者と一緒に考えながら、最後は少しだけ後押ししてあげることも必要であると感じた。

\*\*\* 11/27 久保木 美由紀 (現地担当)

事前登録会 万石ささえあいセンター 7件、SW 介入 3件

MSW 勉強会:27名の参加。当協会からかは7名の参加。事例検討を行った。グループワークを行う中で他のMSWの意見を聞く事で新しい気づきがあったとの意見が出た。また、この場で顔の見える関係になれることもメリットとして挙げられる。次回は平成26年2月を予定。

引きこもりの親の会:参加者2名+1名(新規1名)。定期参加されているメンバー(お子さん本人)に変化が見られてきた。定期的にこの会へ参加することで外出機会ができ、地域のメンタル面で支援をされている団体のコミュニティサロンへ参加することができた。他にもイベント等の参加希望あり本人と親と相談しながら情報提供を行う。

男の遊ぼう会(10時~12時30分):参加者3名。秋の遠足として北上地区神社へお参り、道の駅にて食事。プラン内容は参加者と決定。各参加者主催者側を助けているという意識での参加ではあるが、良い気分転換になっていると。

\*\*\* 11/28 久保木 美由紀 (現地担当)

事前登録会 万石ささえあいセンター 12件、SW介入1件 本庁 177件 SW介入 0件  
ケース対応:70代女性、独居。社協から「申込みに行けない人がいる」と連絡があり、SW介入の依頼があったため自宅を訪問した。復興公営住宅の希望は通院先の病院から近い団地を希望され、申込み受付は完了した。病気の治療の副作用のため腰痛があり、通院だけでなく外出も難しくなりつつある。納税など日常の些細な用事を頼める人がいないと話しており、要支援1だが、内容により介護サービスでは対応できないこともあると言われたことで利用には至っていない。今後、病状の変化やADLの低下が予想され、継続した支援は必要と考える。

\*\*\* 12/5 久保木 美由紀 (現地担当)

月例報告:11月事業報告。当協会の復興住宅事前登録支援もあり約8割の方が登録となった。残りの2割の方へのアプローチを行政と委託事業者、協会で協力して行っていく。詳細については来週以降打合せの機会を持つ。また、渡波、湊、釜・大街道地区でコミュニティが戻りつつある。行政、社協、地域の社会資源、住民の方でミーティングを持ち、コミュニティ再生に向け動いている。一方で仮設住宅で空き部屋も見られるようになり、自治機能が果たされなくなる等の課題も生まれてきている。

東日本大震災1000日を迎えてのイベント参加:石巻のボランティア団体主催で行われたイベント。約3000本のキャンドル(石巻市内で亡くなられた方の数)に火を灯し、支援者含め住民やご遺族の方は当時や亡くなられた方へ思いを馳せ、祈りを捧げていたが、多くの報道陣が来られていた事で、大切な時間が減ってしまった。また、そこに来られない方も多く、2年半経過しても癒されない部分が垣間見れた。

\*\*\* 12/16 久保木 美由紀 (現地担当)

市内フィールドワーク:まずは市内の状況を肌で感じるということで、車で市内を一周する時間を頂く。正直な感想だが、震災当初のニュースもかなり衝撃的なものではあったが実際現地で感じる空気は言葉に出来ないものがある。周囲に何も無いただ広い土地の中で穴のあいている校舎がポツンとある。その埃っぽい空気の重さは、実際に立ってみないと感じられなかったことだと思った。恥ずかしい話だが、その現場を直視することを恐いと感じる自分がいることを自覚した。その他、ひたすらまっすぐな道路や信号機の少なさ、その分地元ルール of 自動車走行の譲りあいがある事、市内と市外で随分様子が違ってくる事等、実際にみて巡って肌で感じる事ができた。車中で見た、まっすぐ道の向こうのまぶしい夕日も含めて忘れられないと思う。

オリエンテーション:現在の石巻市の状況や日本医療社会福祉協会で行っている活動についてオリエンテーション。震災後「急性期的な課題は解決している状況であるが、これから生活していく事への生活課題に対してアプローチしていく時期、生活再建の時期」である、ということが良く理解できた。地域づくりをおこなっている最中であり、最近様々などころで耳にする「地域包括ケアシステム」の構築が今まさに求められているという事を感じた。そして、その中でSWだから持っている視点があり、出来る事があるのではないかと感

じた。また、「私たちは当事者ではない、だからこそ寄り添うという姿勢が求められる」と認識した。

\*\*\* 12/20 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:80代女性。30代の息子(療育手帳所持)との2人暮らし。精神的ストレス軽減目的のため、訪問する。息子の対応について悩んでおられるもサービスは通所のみ。他のサービスの利用には繋がっていない。サービスの紹介もしており、見学にも行っている。息子の定期受診は行えている。今後もストレス軽減のために定期的に訪問を実施する。親族間の折り合いが悪く、それが経済的問題とも絡みストレスになり心身ともに体調を崩されておられる女性。本人の支えであった母親が震災により亡くなられた事も追い打ちをかけた。その中でも、経済的問題において手続きを進め解決方法を模索されていた。他者との関わりが薄く、本人の想いを聞き、行動を支持する支援が必要である。月に1回訪問することで合意。

### \*\*\* 3.石巻での活動の様子 (FaceBook から引用) \*\*\*

\*\*\* 11/25 畑中良子 (現地担当)

たった今、震度3の地震がありました。現地は大丈夫です。少し揺れが大きく感じました。今日はキャロライン・ケネディ駐日米大使が石巻を訪れた。「現地の課題を学びたい。」と。市役所や仮設を周られた様子。

今日は万石仮設のささえあい拠点センターで復興公営住宅の事前申し込み業務の支援を行っていた。どこからともなく、人が集まり、数にして70~80名の集団へ。そこにケネディさんが来られた。現場を自分の目で見、生の声を聴く。

ケネディ氏はあいさつで「米国民は被災地の方々が示した勇気、苦難をはね返す力に感銘を受けた」と強調。「被災地を訪問し、直面する課題を学び、どのような協力ができるかを考えたい」と話したそうだ。

(今日、活動に参加している協力員さんからの情報。写真も提供していただきましたがうまく反映できませんでした。すみません。)

\*\*\* 11/27 畑中良子 (現地担当)

今日は石巻市内のMSWさん達との勉強会。事例検討をしました。参加者は27名。18時30分~20時までの90分。事例紹介をし、質問、グループワーク、発表。その中でたくさんのワーカーの考え方、アセスメントの方法、アプローチの方法等などに触れる事が出来る。回数を重ねる度に気付きになり、次の支援に繋がる。今日も良い意見交換が出来た。前回は大分からの協力員さんが5名参加したが、今回は石川からの協力員さん3名と大阪から1名。そして、活動日ではないが、先日、協力員として活動してくれた仙台のMSWさんが1名、当協会からは参加した。石巻のMSWと全国のMSWとの交流。特に今日は仙台のMSWと交流が出来て良かった。普段、業務で関わりがあっても顔を知らない事がある。こ



のような勉強会を通して、顔の見える関係、連携を取りやすい関係を築いていきたい。今日の事例提供者は「これからも困ったときは相談しますので、よろしく願いいたします。」と締めた。事務局をしてくれている病院の MSW さんお疲れ様でした。次は2月に。

\*\*\* 12/13 畑中良子（現地担当）

今回でも大きな役割を担ってくれた災害時の学校。その使い方のルール決めをしようという動きがあった。美里町で行われたことである。地域の中にある、住民の馴染みの場所として、学校は最適だと思う。今回でも指定の避難所とはなっていない学校がすごく活躍してくれた。その経験を活かし、今後、起こりうるかもしれない災害時に役立てるように地域と話し合いを持つ。これに限らず、「顔見知りの関係」になっている事が連携に繋がることはたくさんある。普段の私たちの仕事に言える事だか、どれだけの人や機関と知り合えて連携がとれるか？これからもコツコツと繋がっていこう。

\*\*\* 12/19 畑中良子（現地担当）

生活再建支援金のうち「基礎支援金」のみ申請期限を 2015 年(平成 27 年)4 月 10 日まで延長すると県が発表した。期限の延長は 11 年、12 年に続き、今回で3回目。県消防課によると、11月末現在の支給決定は累計で12万8232件。住民票を移さずに一時避難し、制度の存在を知らない被災者などもいるとみて延長を決めたとの事。住宅を再建した際に50万~200万円支給される加算支援金の申請期限は18年4月10日まで延長されている。情報弱者と呼ばれる人は申請して手続きが進むことについては漏れる可能性が高い。私たち支援者が情報をキャッチするアンテナをばり、必要な人に必要な情報をタイムリーに渡す事が重要。しかし、一人で集められる情報量は限られるので、横のつながりを通じて教えあう事も重要だ。

\*\*\* 12/22 畑中良子（現地担当）

石巻に児童館が復活する。東日本大震災の影響で市内にあった中央児童館は現在、休館中となっている。来月、19日にオープンする「子どもセンター」の引き渡し式が昨日、行われた。仮設暮らしが長くなっている中、子どもの学び場や遊び場の確保をどうするか、という問題があり、それに取り組まれている団体も多い。街を活性化させようと、市内の小中高生でつくる「子どもまちづくりクラブ」が2011年7月、センターの構想立案に着手。地元住民へのヒアリングや県外の児童施設の視察などを重ね、ことし5月に基本計画をまとめた。運営に関わった子どもたちが望むように、子どもから高齢者までが交流できるスペースになれば。

\*\*\* 12/24 畑中良子（現地担当）

今年3月で一旦打ち切りとなった医療費窓口負担の免除制度が 2014 年度に再開される方向で国は最終調整に入ったとの事。東日本大震災で被災された方を対象に今年の3月まで行われていたが、財政負担が厳しい等の理由で中止となっていた。しかし、仮設生活の

続く中で医療費がかかるからという理由で治療中断しているケースもあった。そんな中で対象者は絞られるかもしれないが、今回の見直しが行われた。高齢者は特に慢性疾患を抱えている方が多い。いつ、どんな形で再開されるかはまだ、具体的にはされていないが、これにより、治療を再開される方もいるかもしれない。治療の必要性、予防の必要性を考え、必要な方は医療に繋がってほしい。医療だけが生活の安心の全てだとは決して思わないが、健康を害すると生活が安定しにくい。必要な人に、必要な事を。

\*\*\* 12/26 畑中良子（現地担当）

震災遺構の問題で何をどこまで残すのかが色々と話し合われていますが、今回、中学生の意思が形となった。隣の女川町の話です。町内21の浜の津波到達点より高い場所に石碑を建てる「いのちの石碑プロジェクト」は、震災発生直後の4月に入学した女川中の3年生が発案した。「1000年後の命のために今できること」を目指した中学生の思いが形になった。須田善明町長は「いろいろなことを思っても動かなければ、動きださなければ何も変わらない。それを子どもたちは自らの行動で実現した」と評価された。碑文の結びは「今、女川町はどうなっていますか？ 悲しみに涙を流す人が少しでも減り、笑顔あふれる町になっていることを祈り、そして信じています」となっている。今回の経験を語り継ぎ、活かしていく事を考えたい。

## \*\*\* 4. 災害支援チーム全体会議の様子 \*\*\*

### 第2回 災害支援チーム 会議 議事録

日時；2013年9月29日(日)13時～15:30

場所；日本医療社会福祉協会 会議室

<宮城県協会会長 庄司氏より現状の報告>

南相馬では介護を担う人員が足りない、仙台市も同様

#### <報告事項>

#### ●現地活動について

##### ① 協会現地責任者：久保木(月次報告書添付)

RCIへの研修会に参加

梅崎講師の講義からアサーティブの重要性を再確認する

RCI企画(男性のための交流会設定)

-名称「男の遊ぼう会」今回4名参加 ⇒ 次回10/24予定(釣りを企画)

-市立病院担当者から「仮設のアルコール依存の方を対象とした会の企画」の問合せあり

RCIケース

-終了目前のケース訪問でも新たな課題が出てきていることもあり、生活の変化がある時期なので継続的なかわりを検討が必要

② 虐待防止センター勤務:畑中(報告資料なし)

相談件数 障害0 高齢5 要保護児童 15

-要保護児童:望まない妊娠から出産から虐待につながるケース

(健康推進課が母子手帳をもらった人をセンターにつなぐ等介入方法を検討)

相談支援について

-何をもって相談・通告にするか、あらためて 10 月に一度話し合う

-国府台病院の SW と SW 同士で相談できるようになった:Dr は佐竹・吉田・渡邊

③ 社会福祉協議会勤務:富永(報告資料なし)

原則として地域福祉コーディネーター10名体制(現在 9 名)

コーディネーター全員とアドバイザーとでミーティングも実施

→ 個々の活動の把握と連携を行っている

活動エリア

・河北エリア、北上エリア、雄勝エリア、桃生エリア、

万石エリア、渡波エリア、開成エリア

<議題>

1. 2013 年度後期活動予定

① 復興支援住宅移行支援について

9月17日から石巻市の復興支援住宅の説明会が開催されている。高齢者世帯や障害者に対しても一律の説明しか行われず、事前登録の手続きに支援を要する方々がある。そこで、石巻市からは説明会場での説明理解への支援や同席支援など、必要に応じて待機した SW が支援するよう要請されている。

・復興住宅への入居は、26 年度以降

・今までは説明会に待機し、必要時に対応

・11 月 12 月は、意向確認書の提出確認にも支援を要望されている

・事前説明会を欠席して相談に来なかった方へのアプローチについて

-石巻市内の在住の方々は掘り起しをしていく(市も同様の意見)

・復興住宅への適応については、市役所に任せる

・経済的相談以外の込み入った相談内容を整理する役割と認識する

(9 月 29 日以前の事前登録説明会での問題点)

・9 月 22 日ビックバン説明会 9:00~14:30(富永)

参加者は 20 名前後で関わった人 1 名

説明者は、障害者の対応に苦慮している様子 →

優遇処置が必要な方に同席するのが better と思われた

・9 月 28 日秋田説明会 13:00~15:00(久保木)

人数 100 名くらい、交流会を含めて行ったが参加者は 2 名で SW の直接関与なし

避難した被災者で既に秋田で生活再建はしているケース

石巻に戻りたい意思はあるが、戻った場合の公的補助や仕事の有無など課題があり、

決定保留で帰宅した方もあり

(説明会の日程)

\* 日程と人員配置の調整は別紙カレンダーに合わせる

石巻市内:各会場において

10月1日~11月30日

10月1会場連続 9/30~4、7~11、15~18、21~25、23~25、29~30

11月1会場連続 5~8、11~12、15~18、18~22、25~29、

盛岡:10月14日(月)

仙台:11月1日(金)~ 3日(日)

山形:11月10日(日)

東京:11月15日(金)~ 16日(土)

\* 市役所の窓口相談にも対応要請あり

(協会としての対応案:今後必要な体制について)

- ・登録している協力員に緊急募集を配信する
- ・10月は拠点センターについては、常駐日を曜日指定で伝えておくこともできる
- ・地方での相談会では、石巻の現状を聞かれると思うので、現地常駐者が担当する
- ・会長会に協力員に緊急募集の協力要請をする-問い合わせ先は事務所

②生活支援課からの困難ケース対応依頼

仮設住宅におけるトラブルケースへの同行、及び介入依頼について検討継続

③康推進課からの依頼

2014年2月以降健康調査による治療中断ケースへのフォローについて検討継続

2. 助成金獲得及び募金について

① 助成金獲得のための調査と応募を検討

② 修会等での募金呼びかけ

③ その他

小原さんより著書の寄付あり→売上げを寄付に充てる

3. ニュースの改善について

◎ニュースレターの目的:

現地の状況がわかること、協会としての活動報告が伝わることを主目的とする

◎メッセージ性の強いニュースレターの作成へ向けて

-現地の状況が凝縮された記事を掲載する(検討中)

-facebook に up している内容を転載する

#### 4. その他

- 10/19 研修:現在の参加者申込者若干名  
さらに出席を呼びかけることが必要!

長先生/宮城先生/山田さんのプロフィールも載せた案内を作成:本日中

- ・学生災害ボランティアサークルに声かける
- ・登録協力員へ再度案内メール送付
- ・葛田から関東近県の理事に送付
- ・木川理事に各県協会への送付依頼

- PCレンタル

現在、現地で使用しているパソコンは東北大学(ネトラボ事務局)から借りている4台  
協会所有のものは未使用(容量が小さくてメインにはできない)

今後の対応

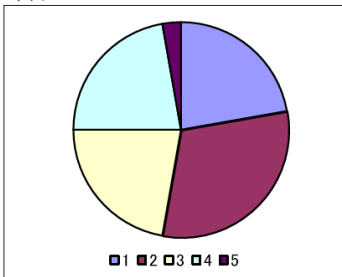
- 現地・災害支援チーム事務・協会事務局とで要調査・相談

### \*\*\* 5. 災害支援研修アンケート集計結果のお知らせ \*\*\*

#### Q1:あなた自身について

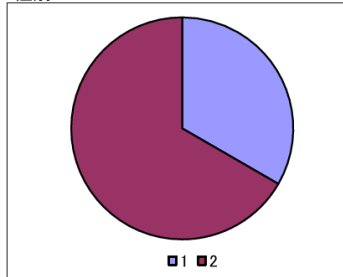
1.年代、2.性別、3.職場(複数可)、4.経験年数

年代



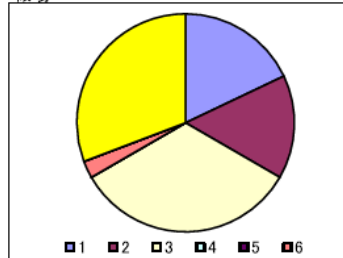
1: 20代
2: 30代
3: 40代
4: 50代
5: 60代以上

性別



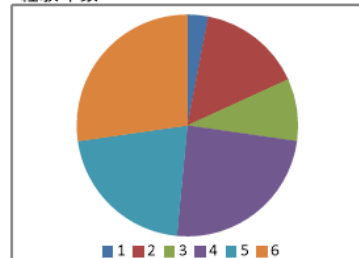
1: 男性
2: 女性

職場



1: 特定機能病院
2: 地域医療支援病院
3: 一般病院
4: 精神科病院
5: 介護老人保健施設
6: 介護療養型医療施設
7: 診療所
8: 在宅介護支援センター
9: 保健所
10: 精神保健福祉センター
11: その他

経験年数

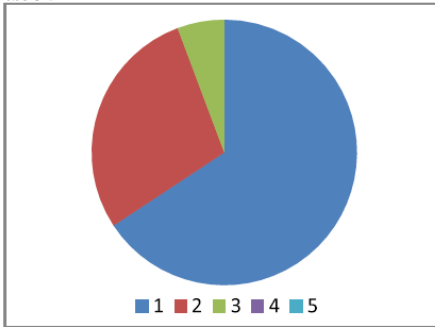


1: 未経験
2: 3年未満
3: 5年未満
4: 10年未満
5: 20年未満
6: 20年以上

Q2: 講義科目を受講した内容について (いずれか1つを選択してください)

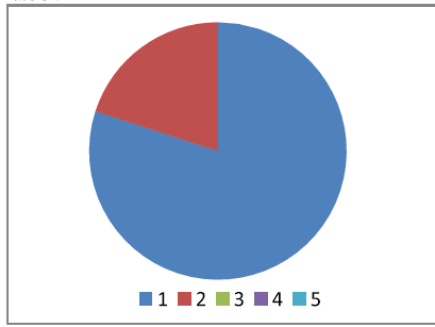
1.【講義1】、2.【講義2】、3.【講義3】、4.【グループワーク】

講義1



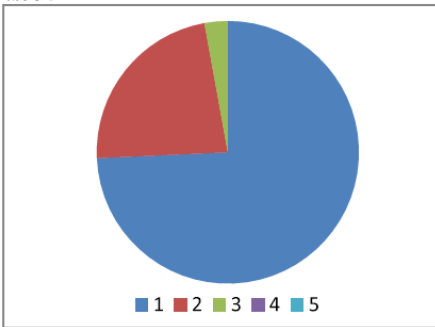
- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |

講義2



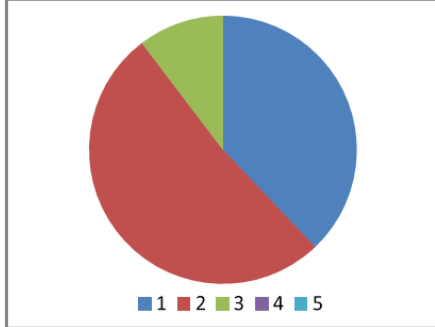
- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |

講義3



- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |

グループワーク

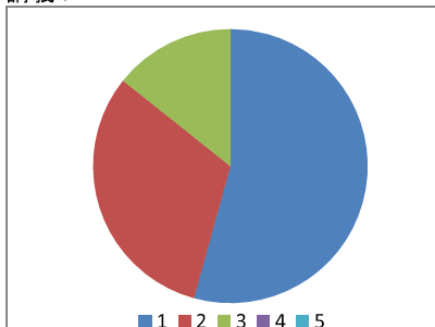


- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |

Q3: 講師の指導方法における配慮や工夫(分かりやすさ)について (いずれか1つ)

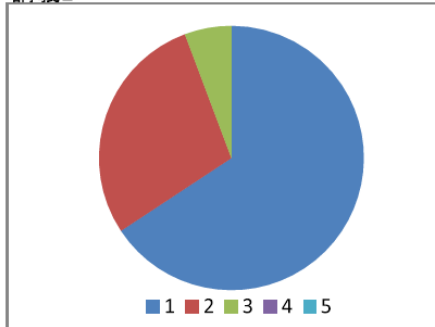
1.【講義1】、2.【講義2】、3.【講義3】、4.【グループワーク】

講義1



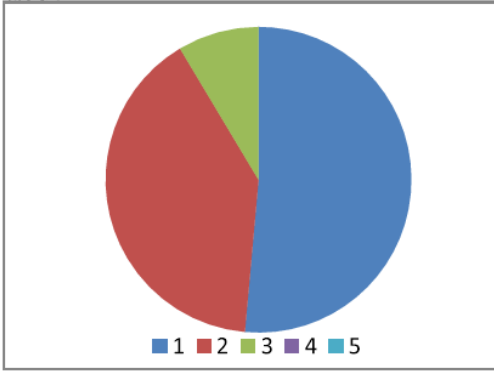
- |                 |
|-----------------|
| 1: 大変良い         |
| 2: 良い           |
| 3: 普通           |
| 4: 多少改善の必要がある   |
| 5: 基本的に改善の必要がある |

講義2



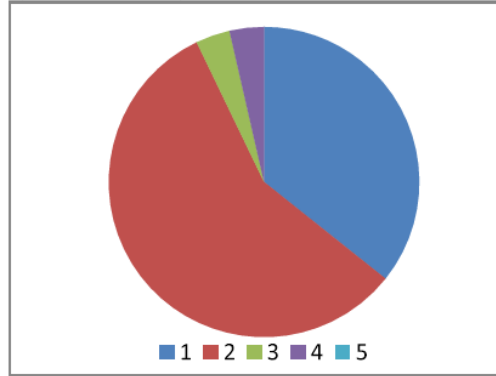
- |                 |
|-----------------|
| 1: 大変良い         |
| 2: 良い           |
| 3: 普通           |
| 4: 多少改善の必要がある   |
| 5: 基本的に改善の必要がある |

講義3



1: 大変良い
2: 良い
3: 普通
4: 多少改善の必要がある
5: 基本的に改善の必要がある

グループワーク

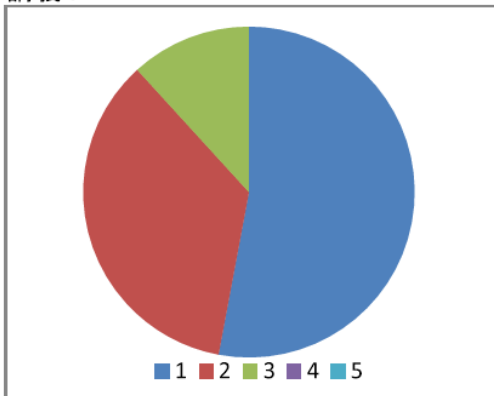


1: 大変良い
2: 良い
3: 普通
4: 多少改善の必要がある
5: 基本的に改善の必要がある

Q4: 使用した資料について、内容のわかりやすさ、分量等 (いずれか1つを選択してください)

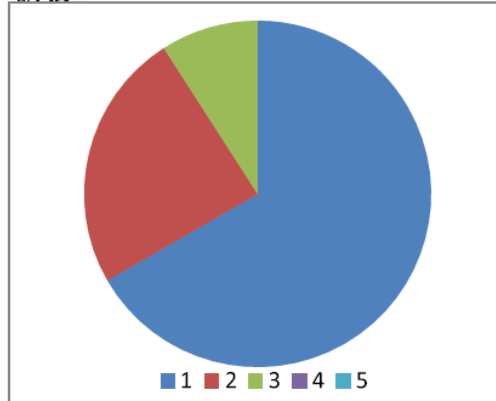
1.【講義1】、2.【講義2】、3.【講義3】、4.【グループワーク】

講義1



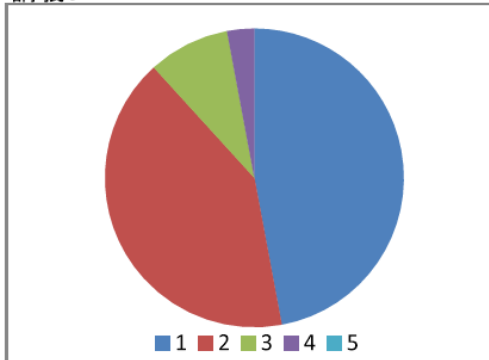
1: 大変良い
2: 良い
3: 普通
4: 多少改善の必要がある
5: 基本的に改善の必要がある

講義2



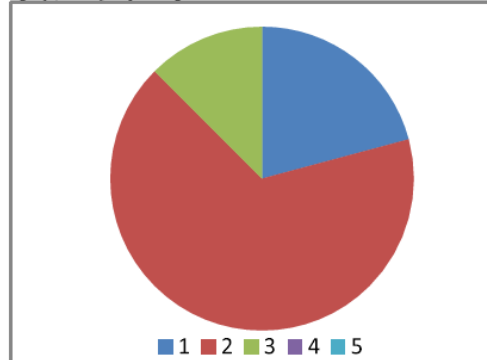
1: 大変良い
2: 良い
3: 普通
4: 多少改善の必要がある
5: 基本的に改善の必要がある

講義3



1: 大変良い
2: 良い
3: 普通
4: 多少改善の必要がある
5: 基本的に改善の必要がある

グループワーク

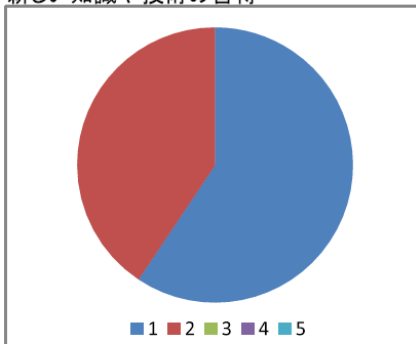


1: 大変良い
2: 良い
3: 普通
4: 多少改善の必要がある
5: 基本的に改善の必要がある

Q5: 本研修の受講効果について (いずれか1つを選択してください)

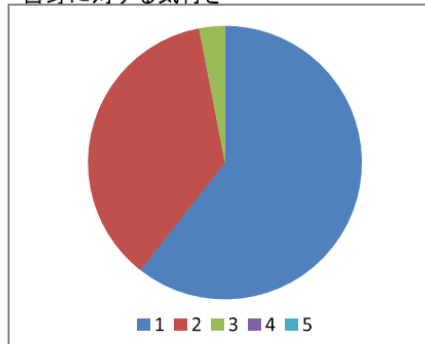
1. 本研修を受講して、新しく習得した知識や技術の習得がありましたか。
2. 本研修を受講して、あなた自身に対するの気づきがありましたか。
3. 本研修を受講して、その内容が理解できましたか。
4. 本研修を受講して、研修目標(学ぶべき内容)への到達ができましたか。
5. 本研修を受講して、今後のあなたの実践に生かせるような事項がありましたか。
6. 本研修全体の満足度を記入してください。
7. グループワーク

新しい知識や技術の習得



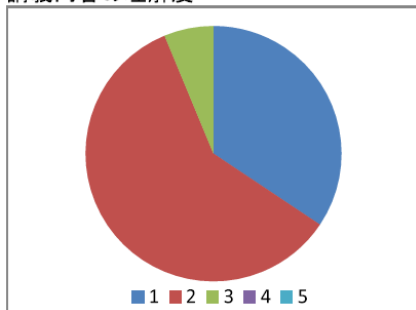
- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |

自身に対する気づき



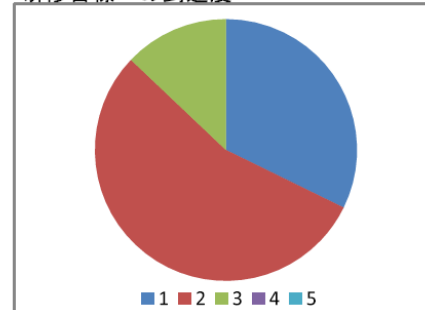
- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |

講義内容の理解度



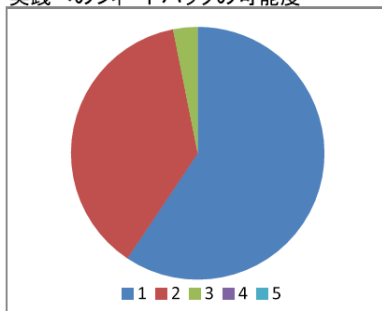
- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |

研修目標への到達度



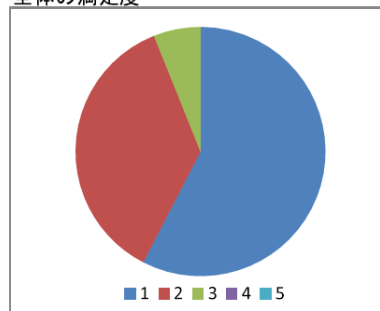
- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |

実践へのフィードバックの可能性



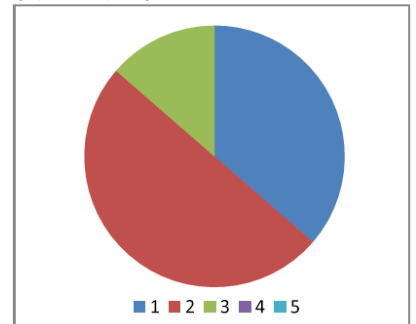
- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |

全体の満足度



- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |

グループワーク

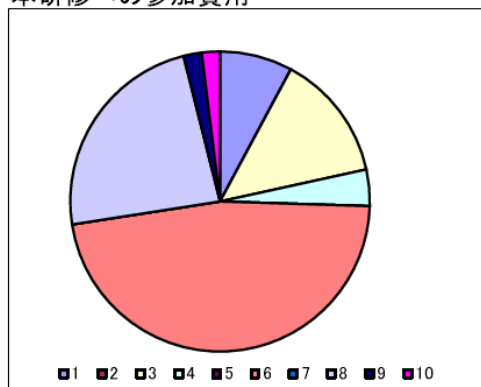


- |              |
|--------------|
| 1: 大変役立つ     |
| 2: 役立つ       |
| 3: 普通        |
| 4: あまり役にたたない |
| 5: 役にたたない    |



## Q6:本研修の参加費用について

本研修への参加費用



公費支給あり	1: 受講料全額
	2: 受講料一部
	3: 旅費・交通費全額
	4: 旅費・交通費一部
	5: その他
私費負担あり	6: 受講料全額
	7: 受講料一部
	8: 旅費・交通費全額
	9: 旅費・交通費一部
	10: その他

## \*\*\* 6. 災害支援チームからのお知らせ \*\*\*

### 【1.協力員募集】

#### \*\*\* 現 地

- 1). 現在、1日あたり上限 2~3 名で募集しております。原則として中 3 日以上、平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害支援チームまでお気軽にご相談ください。

**但し、初回参加の方は活動日数を 3 日以上でご参加お願い致します。**

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

#### \*\*\* 事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが、1~2ヶ月に1回でも構いませんので、ご協力をお願い致します。

### 【2.書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療 ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から 2011 年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 12 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。ぜひご覧になってください。

尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

ボタン I とボタン II とを同時にご購入される場合は合計冊数で送料を頂戴致します。送料表でご確認下さい。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

ボタン I : URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

ボタン II : URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

### 【3.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしく願いいたします。

\*\*\* URL \*\*\*

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

### 【4.YouTube】

昨年の災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。現在はサポートセンターを活動拠点としております。当時の様子を知っていただく貴重な資料として、YouTubeにアップしておりますので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

\*\*\* URL \*\*\*

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



## \*\*\* 7. 事務所より \*\*\*

\*\*\* 12/13 尾形 仁 (国立病院機構西群馬病院)

約5カ月ぶりに事務所ボランティア活動にきましたが、すっかりPC操作も忘れており、逆に金子さんにご迷惑をおかけすることになり反省しております。たまにきて何かを出来ることはあまりありませんが、災害支援が皆様の力で続いていることを実感します。「継続が大切」であることを再認識した一日でした。来年も無理せず出来る限りの参加をしたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

(編集担当 鴨島病院 医療ソーシャルワーカー一同)  
東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成25年12月27日 第3巻14号  
作成 徳島県医療ソーシャルワーカー協会